

自然システム学専攻	研究分野	植物自然史	Lab. ID NS01
研究室Webサイト	http://plant.w3.kanazawa-u.ac.jp/		
研究課題の概要			
<p>植物は地質時代を通じて多様化し、多様化は現在も続いています。私たちは、植物の多様性がどのようにしてできたのかを、分類学、系統学、解剖学、発生生物学、古植物学の手法を用いて解明しようとしています。現在は特に、1) 初期陸上植物の進化とそのボディプラン、2) 真葉の進化とその背景にある発生機構、3) 種子起源の責任制御因子、4) 中生代以降の日本の植生史、5) 日本に生育する(固有)植物の系統、6) どのようにして南北半球の植生が非対称になったのか、について研究を進めています。</p>			
博士前期課程/後期課程院生の指導方針、具体的なカリキュラム、研究室での活動等			
<p>[全学生]生物学や地球科学のあらゆる事象に興味を持たなければなりません。また、学生は、仕事中毒になっている最もアクティブな教員よりも一生懸命に働かなければなりません。 [博士前期]教員は研究可能なテーマを提示します。もちろん、自分でテーマを提案してくれても結構です。自分で立てた研究計画に従って問題を解決することを求めます。 [博士後期]自分で研究テーマを見つけて下さい。教員は指導者ではなく、批判好きな同僚の一人です。</p>			
研究室生活の紹介等			
<p>学生にはそれぞれ、研究機と実験台を用意します。週1回のセミナーがあり、研究の進捗を報告します。私たちは、小さな居酒屋の探検をライフワークにしています。おかみさんのお話を聞き、どのような大人になるのかを学びます。また、居酒屋で、分野の未来について語ります。</p>			
教員からのメッセージ			
<p>人類はまもなく、ほぼすべての生物のゲノム情報を手にするでしょう。ちょうど200年以上前に博物学者が生物の外部形態を比較していたように、私たちは近い将来ゲノム情報を生物間で比較することになります。言い換えれば、ゲノム博物学の時代が始まるのです。その新時代は生物比較のプロたる分類学者によって統治されなければなりません。私たちはみなさんに、新時代のリーダーになって欲しいと思います。</p>			
最近(過去3年間+必要に応じて)の修士論文題目			
修了年月	タイトル		
2017.3	金沢市に分布する中新統犀川層の花粉分析		
2017.3	Classification of genus Pinus (Pinaceae) based on anatomical characters of cone scales (球果鱗片の解剖学的特徴に基づくマツ属(マツ科)の分類)		
2016.3	日本産セリ科シシウド属植物の繁殖様式の進化		
2015.3	シロイヌナズナの胚珠形成におけるClass III Homeodomain-Leucine Zipper遺伝子の機能解析		
2014.3	胚珠の雌蕊化を抑制する機構の解析		
2013.3	ヒメツリガネゴケの葉の形態形成における <i>PpSCR1</i> の機能の解明		
最近(過去3年間+必要に応じて)の博士論文題目			
修了年月	タイトル		
2014.3	Post-zygotic Hybridization Barriers in Rice Endosperm (イネの内乳における生殖隔離機構の解析)		
研究室連絡先メールアドレス	山田 敏弘 <nymphaea *at* staff.kanazawa-u.ac.jp>、小藤 累美子 <kofuji *at* staff.kanazawa-u.ac.jp>		